

協働的活動と共同的作業の試み

—中学校社会科公民的分野 経済単元「政府の役割と国民の福祉」の授業実践から—

埼玉大学
 埼玉大学教育学部附属中学校 内藤 圭太

1. はじめに（問題の所在）

教職のいわゆるブラック問題（長時間労働、過労死等）が一般企業の働き方改革とともに社会的な問題として国会をはじめ、マスコミ報道においても取り上げられて久しい。このような中、働き方改革の動向は教員の教育活動にも影響を及ぼし、教員本来の職務の中心にある授業改善こそが多忙化した学校教育の働き方改革に連動するのではないかと考える。特に、中学校では「部活動」「高校受験、進学指導」

「非行問題行動等」などの課題に焦点が当てられ、生徒たちも教師にとっても学校での日々の大半の時間を過ごす授業に費やすエネルギーが授業外の対応や活動に奪われがちだとの歎き節を耳にすることが多くなった。

もちろん、一人ひとりの生徒は背後で、様々な事情、大げさに言えば彼らなりの人生を背負っている。さらには、将来の進路への不安や葛藤も抱えているに違いない。そのうえで集団での生活や活動が学校では繰り返される。いじめやトラブル、各種の悩みの種はいたるところに蒔かれていると言えるだろう。

ところで、今一度、登校から下校までの生徒たちのスケジュールを確認してみたい。学校週5日、1日6時間の授業時間が設定されている。例えば、午前8:20に登校、午後15:50に放課の場合、450分に及ぶ生活の実に300分が授業に配当されている。学校生活の約7割は授業時間である。そして、週5日間にわたって続くのである。さらに、学習指導要領、及び各教科の学習指導要領解説を眺めれば、各学年で生徒たちに求める学習の内容は量においても質においてもかなり多く、高いと言えるだろう。したがって、授業を行う教師側にも学習指導に関して、教材研究や学習形態、評価方法など実践前の準備にかなりの量と質が求められることになる。同様に実践後の省察と改善まで含めればさらにエネルギーを注ぐことになる。心配なのは、授業実践者が授業内活動と授業外活動への費やすエネルギー（必

ずしも時間では測れない）の逆転である。このことは教師だけではなく、本来学びの主人公である生徒たちにおいても授業に向かうエネルギーが他の様々な問題（仲間関係、受験や進路、いじめなど）に奪われているか、である。

エネルギーの逆転した授業になっているかいないかを見分ける一つの方法は、短絡的な見方ではあるが、「授業が楽しい、面白い、もっと学びたい」との声を拾うことである。この声が聞こえてこない授業が続くと、教師側はノルマとしての授業となり、「〇〇までは教えたよ」「教科書の〇〇頁まで進んだからね」の発言が多くなり、生徒たちからは「〇〇はテストに出ますか」「教科書の内容が頭に入らないよ」の発言となって、いつしか教師も生徒たちも主体的な取り組みから離れたノルマとしての授業に陥っていく可能性が高い。特に、中学校社会科は社会的事象が羅列された教科書のページも他教科に比べて厚く、記述内容の量も質も多く、高いので要注意だ。ぜひ、教師の授業評価を生徒たちから集め授業改善に生かしたい。

考えてみれば、授業の中では知識・理解といった知的な面だけでなく、一人ひとりの思いをベースにした協働的な活動を通じて生徒相互の人間関係の広がりを作ることが可能である。また、授業のための教室空間の整備や授業形態のルール作りは道徳的な実践の場でもある。もともと学校は児童生徒の実態に応じて授業を中心に据えた教育活動を行う場であり、授業を通じて身に付けた各教科の見方・考え方を授業だけでなく、学校生活や日常生活で活かしていくことで、総合的な生きる力の基礎を養える場である。このことを踏まえ、今回の授業実践は、教科内容の学習事項を再構成し、「主体的・対話的で深い学び」を意識して、生徒たちは「授業が楽しい、面白い、もっと学びたい」と声をあげ、教師自身は「授業実践をもっと楽しみたい」と取り組める授業を提案したいと試みた実践の報告である。冒頭で述

べた教員のブラック問題の改善に向けて、生徒指導や進路指導を含めて、生徒たちにとっても教師にとっても学校での生活の中心にある授業から改善することが案外近道ではないかと考える。

1. 授業構想にあたって

さて、この単元の学習テーマである「政府の役割と国民の福祉」について、中学3年生の生徒たちが何をどう学び、どんな力を身に付けるのか。

現在、新しい学習指導要領（2017年告示）の全面実施を控え、教育課程をはじめ、授業改善など多方面で議論が続いているところだが、社会科の教科の実践においても社会的な見方・考え方を鍛え、社会的な事象への認識を深めるとともに、社会的な問題や課題を解決していくための多面的・多角的に思考、判断、表現する力が求められ、そのためには、学習課題への「主体的、対話的で深い学び」の授業実践が推奨されている。

このことを踏まえ、授業実践を前に我々は議論を繰り返した。その主なポイントは、

- (1) 中学3年生という段階にある生徒たちの実態に応じた財政についての学習内容をどのように絞って見方・考え方を養っていくのか。
- (2) (1)に関連して、学習内容や社会的な事象に対しての各自の興味関心、志向、知識や理解に格差がある生徒一人ひとりの状況に対応した授業をどのように構想していくのか。
- (3) 5時間という配当時間内で、授業者がねらうゴール（税の意義と政府の財政活動）をどのように設定していくか。また、そのゴールを生徒たち同士がどこまで共有できるか。

この3点の議論をもとに、授業を構想することにした。

(1)については、年間授業時数からこの単元での配当時間は5時間扱いとなるが、学習指導要領で示された学習内容の主な事項だけでも「社会資本の整備」「公害の防止など環境の保全」「少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」「消費者の保護」「財政及び租税の意義」「国民の納税の義務」「市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関する国や地方公共団体の役割」が示されている。反転的な視点から生徒に家庭学習を課して学習を進めることも勘案したが、生活実態からして、中学校3年生が受験期を控えた11月の時期に家庭学習の時間を確保することは忍びない。かと言って

学習事項を平易な解説とするような授業では主体的に取り組む授業は期待できない。生徒相互の話し合い活動の中から彼らなりの税や財政への見方・考え方で学習内容に迫ることを期待したい。

(2)については、他教科での授業も含めこれまでの学習からグループ学習をはじめとして話し合い活動については効率的に取り組める下地はある程度できている。しかし、社会科について個々の興味関心や知識理解に関しては差があり、得意不得意の層も大きく分かれていることから、単に話し合いの場を設けるだけではかえって格差を広げる可能性がある。そこで、思い切って、教師は距離を置いて生徒同士で学び合う時間を出来るだけ確保し、協働的な活動を通して共同的な作業を仕上げることを目標に自分たちで自分たちの疑問を解決しながら財政について学ぶ授業を構想することを試みる方向で考えた。

(3)については、財政の基本となるとともに、中学生も消費者の一人としてその一端を担っている税（消費税）についての意識を切り口とした授業展開を構想した¹⁾。2019年10月1日から消費税の税率が10%に引き上げられ、実施前後から新聞テレビをはじめとしたマスコミ報道でも数多く取り上げられた。生徒たちも物品の購入や家庭での支払い場面など日常生活を送る中で、消費税について関心を持っている。しかしながら、税の意義や働きについて公共サービス、社会保障といった政府の財政活動にまでの関心を高めている生徒は少ないのではないかと予想し、税に関する簡単なアンケートを実施して、税がどのような使われ方をするのかなどの機能や働きについて問い、その結果をフィードバックさせながら財政の学習を構成してみた。

2. 学習内容と学習方法・形態

この単元で扱う学習内容は学習指導要領公民的分野の「内容B『私たちと経済』の(2)国民の生活と政府の役割」で示された「社会資本の整備」「公害の防止など環境の保全」「少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」「消費者の保護」「財政及び租税の意義」「国民の納税の義務」「市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関する国や地方公共団体の役割」である。これらの幅広く、多岐にわたる政府の役割である財政について、限られた時間内で学習していくのであるが、一つ一つの内容を各自がそれぞれに取り組んでいくには困難が予想され、かといって、教師が網羅的に

説明を繰り返しても生徒たちの主体性が発揮される可能性は低い。

また、「課題を追究したり解決したりする活動」を行い、「多面的、多角的な考察、表現を通じて思考力、判断力、表現力等を身に付ける」ことが学習指導要領の目標に掲げられている。

これらのことを踏まえ、この単元の学習は、生徒たちの素朴な税への意識調査を切り口に、

- (1)学習内容については、教材を敢えて、学習内容が網羅された教科書と副教材(全員が共通に所持している)に限定して、学習指導要領に示された学習内容を中心に学び合う学習を目指した。
- (2)学習方法、形態としては、限定された教材(教科書、副教材)から、担当するテーマごとのグループでの個人の学び、協働での学びの視点を発揮して、生徒たち自身が学び、学び合う授業展開の中で、自身の理解だけでなく、他者へ自らの学びを伝えたり、学んだことを共有することをゴールに据えることで学びの広がりや新たな問いを誘発すると考えた。
- (3)なお、生徒たちが授業で使用する教科書や副教材は、2008年告示、道徳改訂反映後の学習指導要領に基づいて発行されたものであるが、授業での学習活動は2017年告示の学習指導要領を踏まえた授業を展開する。すなわち、「対立と合意」「効率と公正」といった現代社会を捉える見方、考え方を意識しての発問に留意し、学習形態においても「主体的・対話的で深い学び」を踏まえて、思考力、判断力、表現力等を育成するプロセスをできるだけ具体化できるよう工夫した。

3. 授業前、授業後のアンケートについて

授業前と授業後に、生徒たちにアンケート調査を実施した。授業後のアンケートについては後述。

(1)授業前アンケート

- 1)あなたは、商品を購入する際に商品に課される税を支払っていることを意識しますか。
 - ①とても意識する
 - ②まあまあ意識する
 - ③あまり意識しない
 - ④意識しない
- 2)あなたは、商品購入の際に支払った税がどのように使われるか関心がありますか。
 - ①とても関心がある
 - ②まあまあ関心がある
 - ③あまり関心はない
 - ④関心はない
- 3)1年間に得た所得(働いて得た給与)の額によって、その所得にかかる税の割合が異なっているこ

とを知っていましたか。(年収500万円と2000万円では納める税額に格差がある)

- ①よく知っている
- ②なんとなく知っている
- ③知らない
- ④関心がない

4)太郎君のお父さんは宝くじで1000万円の当選金額を得たので、太郎君の教育資金にしようと太郎君に500万円与えることにしました。この場合、税に関わる課題はあるだろうか。

- ①当然ある
- ②税に関わるかもしれない
- ③おそらく関係はない
- ④全く関係ない

5)あなたは税の使い道として最も大事にしたい項目はどれですか。1つ選び理由も書いてください。

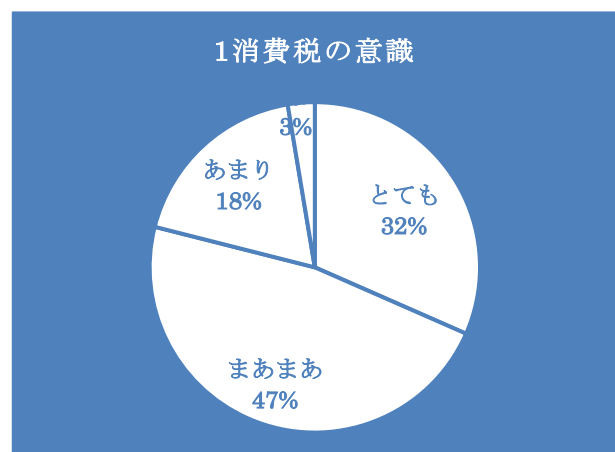
- ①教育の充実
- ②年金の充実
- ③公的医療保障
- ④公的介護
- ⑤災害対策
- ⑥国防・防衛

6)国は財政(国民生活のために使うお金)全体の2割を借金(国債の発行で)しています。このことをあなたはどうか考えますか。下から1つ番号を選んでください。

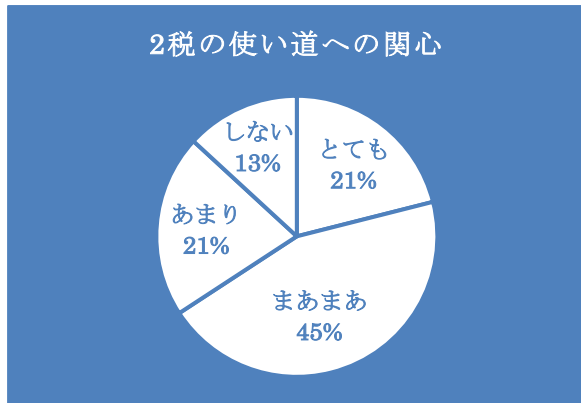
- ①将来、借金した分は税金を上げて返す可能性があるのだから、すぐに国債の発行を控える方がよい。
- ②公共サービスを止めたり、税の負担を増やすのも難しいので、時間をかけて、少しずつ国債を減らしていけばよい。
- ③公共サービスは大事なもので、赤字でも国債を発行して、借金が減っていかなくても仕方ない。
- ④わからない。

7)税を徴収することが全くない国や地方自治体に住んでいれば、人々は税を支払う負担を心配することはありません。もしも、日本の国や地方自治体が全く税を徴収することが無かったら、私たちの生活はどう変わるとお考えですか。考えられることを記入してください。

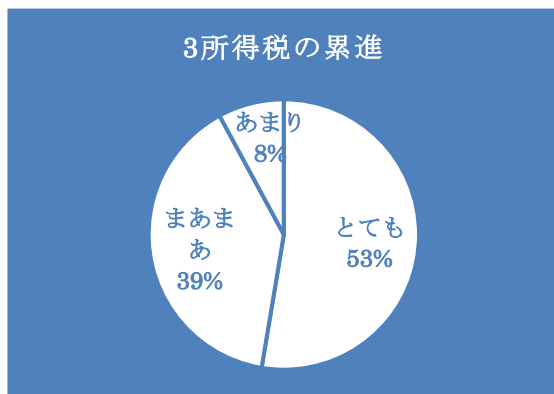
【アンケート結果と概要】



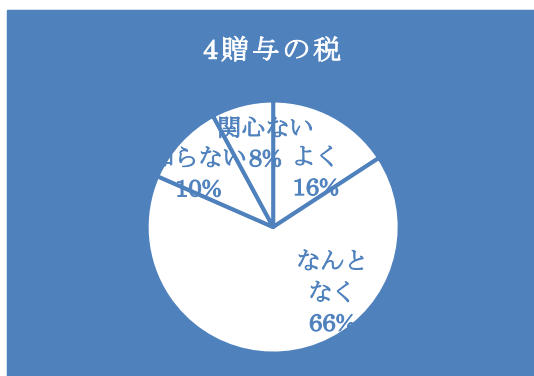
1)商品購入の際に税(消費税)の関心はあるかとの問いに生徒たちは38名中30名、約8割の生徒は関心があると答えている一方、7名、2割の生徒はほとんど関心を持たないという。消費税の税率が10%に上がって間もない時期にしては、2割という数はやや多いのではないかとの印象だが。



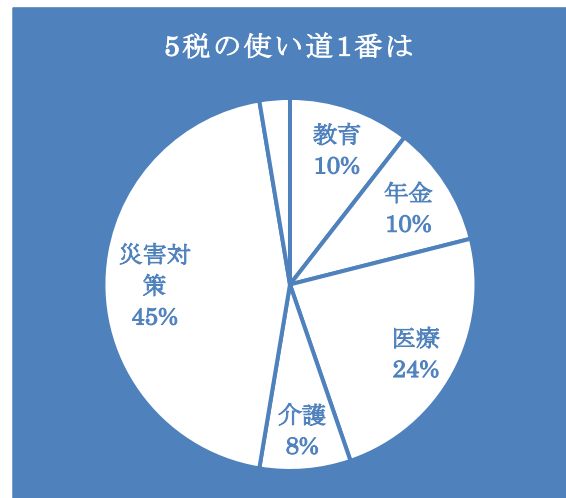
2)それでは、支払った税の行方(使い道)に関心があるかという質問では25名、65%の生徒は関心があると答えたが、35%の13名は関心が弱い。実際、商品を購入しているにもかかわらず6割を超える程度の関心の割合である⁽²⁾。



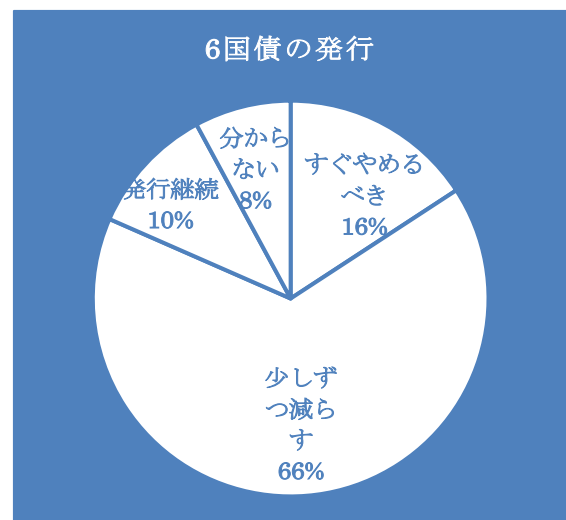
3)まだ勤労所得や事業所得など所得を得る年齢ではないが、35名、9割以上の生徒は所得の累進税率についてはすでに知っている。家庭や地域で大人たちの会話やマスコミでの報道に接する機会が案外多いのかもしれない。



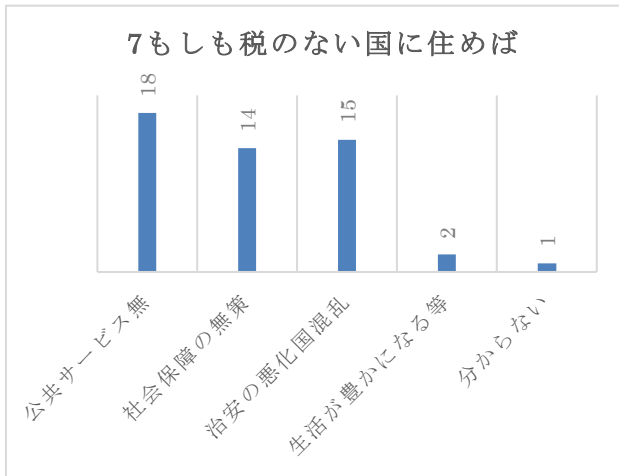
4)ここでは「宝くじ」(臨時収入)「教育資金」(譲渡収入)などの収入についての課税の有無を考慮することで税収の範囲や仕組みへの推察を問うたが、身近な話題だけに31名8割以上の生徒は関心を寄せている。



5)税の使い道で「災害対策」を選択した生徒は17名、半数近くなのは、アンケート時期にはまだ台風、洪水被害のニュースが続いていた影響ではないかと考えられる。



6)国債の発行については、「直ぐに」、「徐々に」を合わせて、8割の生徒が減らす方向にあるが、「借金」という表現に選択が引きずられた印象を感じる。財政の特に福祉政策とのバランスなどに工夫が必要な回答かもしれない。



7)この質問は記述での回答のため、複数にわたる記述を主なキーワードで集計した。税の役割についてどのように考えるかを問う質問であったが、公共サービス(消防、救急、インフラなど)、医療、年金、教育といった社会保障、警察、国防の治安維持などを記述する者が多かった。その一方で「人々は税を支払う負担を心配することはありません」といった文言に生活が豊かになるとイメージした記述をした生徒もいた。

せん」といった文言に生活が豊かになるとイメージした記述をした生徒もいた。

4. 授業実践「政府の役割と国民の福祉」

(1)単元の目標

本単元の学習は学習指導要領に示された「B 私たちと経済」の(2)国民の生活と政府の役割について、の単元である。この単元のねらいは、「対立と合意、効率と公正、分業と交換、希少性などに着目して、課題を追究したり解決したりする活動を通して」、「社会資本の整備」「公害の防止など環境の保全」「少子高齢社会における社会保障の充実・安定化」「消費者の保護」「財政及び租税の意義」「国民の納税の義務」について理解すること。さらに、「市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関しての国や地方公共団体の役割」、「財政及び租税の役割」については、多面的、多角的な考察、表現を通じて思考力、判断力、表現力等を身に付けることとされている。

(2) 単元指導計画

時間	学習課題	学習内容
1	「税(税金)が私たちの生活にどのような関係や影響を持つのか考えてみよう」	<ul style="list-style-type: none"> ・税(税金)に対する素朴な疑問 ・そもそもどうして税(税金)を集めるの? ・誰(どこ)が税を集めるの? ・集められた税(税金)はどのように使われるの? ・もしも税(税金)が無い国で暮らすとしたらどんな暮らしになるのだろうか? ・財政って何?
2	「担当窓口の教科書の内容についてわかっていること、わからないこと、疑問に思うこと、表やグラフが伝えること、自分たちの生活とどうつながっているのかなどについて、協働して解決しよう!」	<ul style="list-style-type: none"> ・4つの窓口 「私たちの生活と財政」…×2 「政府の役割と財政の課題」…×2 「社会保障の仕組み」…×2 「少子高齢化と財政」…×2 ・教科書の内容をグループごとに検討し、理解できないこと(わからないこと)や疑問点について、話し合い、学び合いながら整理していく。
3	「税や財政について、これは学んでおかなければ、の問題作りにチャレンジ!」 ・自分たちが担当している窓口からの学びについてのクイズ問題を5問作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループへ自分たちの学びをアピールしていく問題を作成する。(教科書、または資料集を参考にしながら) ・5問の内訳 ①選択問題 ②○×問題 ③穴埋め問題 ④説明記述問題 20字以内 ⑤考えや意見を問う問題<正解はない>

4	<p>○「学び合い活動で財政について学習しよう！」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ジグソー的グループ構成による学び合い活動 	<p>○1～4, 5～8の各グループのメンバーが一人ひとり分散して, 4人一組のグループを作る。</p> <p>(各グループは♦, ♠, ♥, ♣のメンバーによって構成される)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書を使ってテスト問題をヒントに一人10分ずつ, 学んだことをグループ内のメンバーに交代で説明する。 ・5問のテスト問題をヒントにして, 教科書を使って他のグループのメンバーに説明していく。
5	<p>○テスト問題にチャレンジ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちで作成した問題を他グループとともに解答していく。 ・クラス全員での学び合い学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・20分でテスト(解答記入) ・15分で, 他グループなどと一緒にクラス全員で学び合いながら答え合わせを行う。 ・10分間で総復習

(3)各時間の学習指導案

時間	学習内容	学習活動
1	<p>○自分たちの税意識</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の確認 <p>○税や財政と自分たちの生活との関連について話合う。</p>	<p>○自分たちの税意識の確認</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. あなたは, 商品を購入する際に商品に課される税を支払っていることを意識しますか。 2. あなたは, 商品購入の際に支払った税がどのように使われるか関心がありますか。 3. 1年間に得た所得(働いて得た給与)の額によって, その所得にかかる税の割合が異なっていることを知っていましたか。(年収500万円と2000万円では納める税額に格差がある) 4. 太郎君のお父さんは宝くじで1000万円の当選金額を得たので, 太郎君の教育資金にしようと太郎君に500万円与えることにしました。この場合, 税に関わる課題はあるだろうか。 5. あなたは税の使い道として最も大事にしたい項目はどれですか。1つ選んで, 理由も書いてください。 ①教育の充実 ②年金の充実 ③公的医療保障 ④公的介護 ⑤災害対策 ⑥国防・防衛 6. 国は財政(国民生活のために使うお金)全体の2割を借金(国債の発行で)しています。このことをあなたはどう考えますか。 7. 税を徴収することが全くない国や地方自治体に住んでいれば, 人々は税を支払う負担を心配することはありません。もしも, 日本の国や地方自治体が全く税を徴収することが無かったら, 私たちの生活はどう変わるとおもいますか。 <p>「税(税金)が私たちの生活にどのような関係や影響を持つのか考えてみよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・税の役割や働きについての素朴な疑問について考え, 話し合う。 <p>「どうして税(税金)を集めるの？」 「だれが税(税金)を集めるの？」 「どうやって税(税金)を集めるの？」 「集まった税(税金)はどうなるの？」</p>

	<p>○次時以降の学習計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4～5人のグループを作る。(8グループ) ・4つの窓口の振り分け。 	<p>「もしも税(税金)が無い国で暮らすとしたら暮らしは...？」</p> <p>○財政と自分たちの生活や暮らしとの関りについて概観する。 「財政って何？」</p> <p>○次時以降の学習についての流れを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ作成(8グループ) ・4つの窓口の確認(各2グループずつ)
2	<p>○担当した窓口に関する疑問点を洗い出す。</p> <p>○学習資料は「教科書」「資料集」を中心に扱う。</p> <p>○必ず話し合う課題から取り組む</p> <p>○疑問点やもっと知りたい事柄については、教科書、資料集で調べていく</p> <p>○グループ交流</p>	<p>○「担当窓口の教科書の内容についてわかっていること、わからないこと、疑問に思うこと、表やグラフが伝えること、自分たちの生活とどうつながっているのかなどについて、協働して解決しよう！」</p> <p>○4つの窓口()については必ず話し合う</p> <p>「私たちの生活と財政」 (予算とは何か？ 歳入と歳出の内容は？ 直接税と間接税の例 累進課税の目的は？)</p> <p>「政府の役割と財政の課題」 (政府の4つの経済的な役割 公債の種類と役割 現代の財政の課題は？)</p> <p>「社会保障の仕組み」 (社会保障の考え方はいつから？ 社会保障の4つの柱と内容 社会保障が無かったらどうなる？)</p> <p>「少子高齢化と財政」 (少子高齢化の今と未来 少子高齢化は何が問題なのか？ 福祉社会と財政の関係は？)</p> <p>○学び合いながら確認していく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかっていること、わからないこと ・疑問に思うこと ・表やグラフが伝えること ・自分たちの生活とのつながり ・もっと知りたいこと <p>○「同じ窓口を担当するグループとも話し合い学び合おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の学習問題作成に向けた準備をする。
3	<p>○学習問題の作成 「これは学んでおかなければ！ 学んでもらいたい事柄だ！」</p> <p>○グループ協議</p> <p>○模範解答作成</p>	<p>○「担当した窓口での学びから、大切だと思う内容についての学習問題を作成しよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他のグループへ自分たちの学びをアピールしていく問題を作成する。(教科書、または資料集を参考にしながら) ・5問の内訳 ①選択問題 ②○×問題 ③穴埋め問題 ④説明記述問題 20字以内 ⑤考えや意見を問う問題<正解はない> <p>○・同じ窓口を担当した2グループが協議して、2グループで「これは学んでおかないと、学んでもらいたい」という観点で5問に絞る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少なくとも自分たちのグループの問いについては全員が答えられるようにしておく。 <p><第5時にテストが実施できるように協力する></p>

4	<ul style="list-style-type: none"> ○「これだけは学んでほしい財政の仕組みと働き」 ○ジグソー的グループ構成による学び合い活動 	<ul style="list-style-type: none"> ○1～4, 5～8の各グループのメンバーが一人ひとり分散して、4人一組のグループを作る。 (各グループは♦, ♠, ♥, ♣のメンバーによって構成される) ・教科書を使ってテスト問題をヒントに一人10分ずつ、学んだことをグループ内の他のメンバーに交代で説明する。 ・5問のテスト問題をヒントにして、教科書を使って他のグループのメンバーに説明していく。
5	<ul style="list-style-type: none"> ○「財政の仕組みと働きについてテスト問題から学ぼう！」 ○テスト問題の実施 ○解答合わせと確認 ・全員で学び合い ○総復習 	<ul style="list-style-type: none"> ○各グループ作成の合計20問の財政に関するテスト問題を20分で解く。 「A4判用紙4枚」 ・「選択肢問題」「○×問題」「穴埋め問題」「説明記述問題」「考え・意見表明問題」の5問 ○15分でクラス全員で学び合う。 ○10分間の先生からの総復習

4. 授業の考察

(1)各授業時間における主な生徒の反応(質問, 意見, つぶやき, 話し合い)から

主な発問	主な生徒の反応(質問, 意見, つぶやき, 話し合い)
<p>【第1時】</p> <p>○「どうして税(税金)を集めるの？」</p> <p>「だれが税(税金)を集めるの？」</p> <p>「どうやって税(税金)を集めるの？」</p> <p>「集まった税(税金)はどうなるの？」</p> <p>○「もしも税(税金)が無い国で暮らすとしたら暮らしは…？」</p> <p>○「財政って何？」</p> <p>・「予算」「決算」という言葉を聞いて</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた税金で国が学校や保育所, 警察など国民生活に必要な仕事の費用にするため。先生の給料も税金でしょ。 ・市民税という税の話も聞いたことがあるから国が使うお金だけじゃないよ。 ・税がなかったらどうなるのかな? 税金のない国があるようなことを聞いたことがあるけど…。 ・消費税はどんなことに使われるのかな? ・集めるというか, 買い物したら同時に消費税が上乗せされているから, 払ってることになっている。 ・親の話だと, 給料から税金はあらかじめ取られているようなことを言っていた。 ・国と言っても何とか省とか, 税務署とか, どこがどれだけ集めているんだろう。 ・1年間に国全体でどのくらいの税金が集まるのかな? ・逆に払った税金が戻ってくるという話を聞いたことがある。 ・日本銀行は関係ないのかな? ・誰が税金の使い方を決めるんだろう。足りないときはどうするんだろう。使いきれないときはどうするんだろう。 ・税金を不正に使った場合はどうなるんだろう。 ・事故が起こっても救急車や消防車が来ない国になる。 ・国立や公立の学校が無くなる。附属中もない。 ・税金が取られる心配がないので, モノ値段が安くなる。 ・生徒会予算, 決算があるけど, 金額が全然違うし, 世界が違うと思う。 ・国会のニュースで, 予算や予算委員会という言葉を聞く。 ・国会が使い道を決めるの? じゃあ, 財務省じゃないの? ・年金とか義務教育, 健康保険に関係がある。 ・福祉や教育, ダムや道路の整備? ・災害対策工事や高速道路を作るような公共事業のことだ。

<p>たことがありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「社会保障」「社会資本」「社会保険」「インフラ整備」「生活保護」という言葉をきいたことがありますか？ 	
<p>【第2時】</p> <p>「私たちの生活と財政」 (予算とは何か？ 歳入と歳出の内容は直接税と間接税の例 累進課税の目的は？)</p> <p>「政府の役割と財政の課題」 (政府の4つの経済的な役割 公債の種類と役割, 現代の財政の課題は？)</p> <p>「社会保障の仕組み」 (社会保障の考え方はいつから？ 社会保障の4つの柱と内容 社会保障が無かったらどうなる？)</p> <p>「少子高齢化と財政」 (少子高齢化の今と未来 少子高齢化は何が問題なのか？ 福祉社会と財政の関係は？)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スウェーデンやフィンランドの消費税の率は25%, フランスも20%もあって, 日本の倍以上だ。買い物しづらいなあ。 ・個人だけでなく, 企業も結構税金払ってるんだ。 ・ガソリン税って結構税率高いね。どんなことに使われるんだろう。燃費の悪い車だとたくさん税を払ってることになるね。 ・累進課税って本当に公平なのかな？ ・子どもの数が減ってくると教育の予算も減ってくるのかな？ ・国債って, 要は国の借金だけど, 誰に借金してるんだ？ ・景気が悪くなるとモノが売れなくなって, 消費税も少なくなるから国にお金が入らなくなるのに, 景気を良くするために公共事業を増やしたら増々借金の国債が増えるんじゃないの？ ・金融政策ってわかんないよ。日本銀行と民間の銀行でなにかやり取りするんだっけ。 ・世界には大学まで教育費がタダの国があるよ。どうして日本はタダにしないんだ？ ・日本って, 外国に比べると国債に頼る率が高いね。だいじょうぶか？ ・病気やケガ, 高齢で収入がなくなった人たちを助けることはいいことだと思うけど, 働けるのに働かないで社会保障を受けるのは, かえって不公平じゃないかと思う。 ・上下水道整備や廃棄物処理が社会保障だったんで, 全然思ってたかった。 ・社会保障も国によってずいぶん違うんだね。 ・子どもの数が減ってくると教育予算も経るんだろうか？ ・このまま少子化が続くと, 働いて税金を払う人もだんだん少なくなって, 働いていない老人の分を負担するので, 税率は高まりそうだ。 ・日本は高福祉高負担と低福祉低負担の中間のような国だけど, これからはどちらを選ぶんだろうか？高福祉低負担の選択はできないのか？ ・高齢者世帯で働かない場合, 毎月の年金はどのくらいになるのだろうか？2000万円の貯蓄が必要だと聞いたことがあるけど, そんなにお金を貯められるのかな？
<p>【第3時・第4時】</p> <p>「これは学んでおかなければ！学んでもらいたい事柄だ！」</p> <p>1. 「私たちの生活と財政」</p>	<p>1.</p> <p>①選択問題(次の(1)～(5)の説明文で誤ったものを一つ選べ)</p> <p>(1)モノがよくなることで, 生産が速くなくなり, モノの値段が上がることをインフレーションという。</p> <p>(2)公債は, 国や地方公共団体から, 支出の不足分を補うために個人や企業が借入する借入である。</p> <p>(3)経済成長率は, 前年度と比較した国内総生産の増加率のことである。</p> <p>(4)国内において, 1年間の間に新たに生産された財・サービスの総額を国内総生産(GDP)という。</p> <p>(5)日本銀行は, インフレ・デフレの行わず, 安定するために, 公開市場操作という金融政策を行っている。</p> <p>②○×問題(次の説明は○か×か)</p> <p>日本銀行は, 公開市場操作を行うことで, 不要資金を吸収し, 一般の銀行に国債を売りつけて, 金利を上昇させることで, 行方売りやレートを下げる。</p> <p>③穴埋め問題(次の[]に当てはまる事柄を答えなさい)</p> <p>政府は, 赤字のときに [] 税を下げ, 公共投資を [] して, 景気を振返す。</p> <p>④説明記述問題(20字以内)</p> <p>所得の累進課税とは, どのような制度を行い, 何がどうなるのか？</p> <p>⑤考えや意見を問う問題(次の分を読んであなたの考えや意見を述べなさい)</p> <p>現在, 日本は財政赤字が拡大し, 借入が多くなっています。国債の償還を滞らせるため, 税金を減らすか, あるいは, 借入の増えを抑制するべきか, あるいは, 借入の増えを抑制するべきか, あるいは, 借入の増えを抑制するべきか, あるいは, 借入の増えを抑制するべきか。</p>

2. 「政府の役割と財政の課題」

- 1.
- ①選択問題 (次の(1)～(5) 説明文で誤ったものを一つ選べ)
- (1) 課税対象の所得が700万円を超え、納税額は9%となる。
- (2) 国定資産税は市町村税であり、地方消費税は道府県税である。
- (3) 国の歳入の半分以上は消費税である。
- (4) 日本は人ガリマド人リニ比シ、直接税の割合は高いが、消費税率も高いため。
- (5) 納税者と非納税者は一律に同じ税率である。
- ②○×問題 (次の説明は○か×か。)
- 日本の税制は間接税中心の構成ではあるが、近年は直接税の割合が増えている。
- ③穴埋め問題 (次の [] に当てはまる事柄を答えなさい)
- 所得が多くなるにつれて段階的に税率が高くなることを [] という。
- ④説明記述問題 20字以内
- ①のしくみを取り入れている理由は何か。
- ⑤考えや意見を問う問題 (次の分を読んであなたの考えや意見を述べなさい)
- 所得税と消費税はどちらが公平だと思うか。どちらを重くする理由を答えてください。

3. 「社会保障の仕組み」

- 1.
- ①選択問題 (次の(1)～(5) 説明文で誤ったものを一つ選べ)
- (1) 世界大戦後、アメリカが憲法改正を目指して社会保険制度が代わって行われた。
- (2) 日本の社会保障制度の4つの柱は、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生である。
- (3) 社会保障制度は、100年以上前から世界にあったものである。
- (4) 現在、社会保障制度は高齢者に対するのみ生活と保障する制度である。
- (5) 日本の社会保障制度は憲法に基づいて整備されたものである。
- ②○×問題 (次の説明は○か×か。)
- 日本では成人に対して、健康保険証を見せれば、要する人は3割負担で医療を受けることができる。
- ③穴埋め問題 (次の [] に当てはまる事柄を答えなさい)
- 一定の年齢に達してから、ある人は [] によって、現金給付を受けられる。
- ④説明記述問題 20字以内
- 公的扶助には使われている人は、年費や教育費を支給する。何と保障し何と助けるのか?
- ⑤考えや意見を問う問題 (次の分を読んであなたの考えや意見を述べなさい)
- 19世紀以前には、社会制度が人の生活を支える役割は果たさなかった。この意見があった。社会保障の仕組みがなかったら、自分で生活がどうなるかどうなるか?

4. 「少子高齢化と財政」

- 1.
- ①選択問題 (次の(1)～(5) 説明文で誤ったものを一つ選べ)
- (1) 介護保険制度は40歳以上の人が加入する介護サービスである。
- (2) 自営業者が対象となる年金制度は厚生年金である。
- (3) 日本よりも国民負担率が下がっている国はアメリカである。
- (4) 1975年と2010年に比べて、社会保障給付費の年金の割合は減っている。
- (5) 2015年の人口構成に比べて、0～14歳の割合は10%以上である。
- ②○×問題 (次の説明は○か×か。)
- 高齢者人口が増えれば、積立金は減ります。
- ③穴埋め問題 (次の [] に当てはまる事柄を答えなさい)
- 日本は増加している [] をまねたために、消費税率を8%～10%に引き上げました。
- ④説明記述問題 20字以内
- 高福祉高負担の経緯を説明してください。
- ⑤考えや意見を問う問題 (次の分を読んであなたの考えや意見を述べなさい)
- 少子高齢化を解決するために何を「生活」と考えますか?

<p>【第5時】 税は支払うものか？ 徴収されるものか？</p> <p>「税の使い道に意見や要望を反映させるにはどうしたらいいの？」</p> <p>「税の仕組みと民主主義って関係があるの？」</p>	<p>○次のことばの意味を「政府の役割と国民の福祉」の学習のまとめとして、あなたの考えを述べ、グループで話し合いなさい。</p> <p>1 税は支払うものか それとも 徴収されるものなのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支払うことと徴収されることは結果は同じでも気持ちが違う。 ・自分たちの生活に関わるから支払うものだ。 ・使い道を自分では決められないからやはり徴収されるものだ。 ・たくさん払ってる人ほど徴収されていると考えるのではないか。 ・不公平だと考える人は徴収されていると感じているかもしれない。 <p>2 税に無関心である者が、税の無駄に対して文句が言えるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・無関心だったら文句は言えない。 ・文句を言っても税の使い道が変わらないから、そのうち関心が無くなる。あきらめる。 ・黙っていても課税されるから、やはりいろいろ言ったほうがいいけど、誰に言っているかわからない。 <p>3 税と民主主義はどんな関係にあるのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが出したお金で自分たちの生活を支えるから民主主義だと思う。 ・高福祉高負担と低福祉低負担の両方の考えの人が分かれていて、どちらの人の意見聞きながも聞きながら日本の福祉は決まっているから一応民主主義だと思う。 ・アメリカのように貧富の差が日本よりあって、社会保障も弱いのに、どうして民主主義の国だと言えるのか不思議だ。 ・アメリカ、フィンランド、日本その他の国によって、税の集め方や使い方は違っても、その国の国民が議会で決めているから民主主義が成り立つと思う。 <p>○素朴な疑問から</p> <p>○暮らしに不可欠なのに利益が見込めない事業 (社会資本や公共サービス、社会保障)</p> <p>○健康で文化的な最低限度の生活保障 (失業対策 社会保障 経済格差解消<再分配>)</p> <p>○景気の安定 (景気の過熱、不景気防止、公正な競争の確保、物価の安定)</p>
---	---

(2)授業後アンケートから

5時間の授業後に、事後アンケートを実施した。1から4については選択肢から選んでもらい、5については税の働きと財政の役割についての考え、及び、授業形態としての仲間と協働しての共同のテスト問題作成という授業について感想を問うたものである。

【授業後アンケートの質問】

- あなたは税金について関心がありますか？
(ア) 非常に関心がある (イ) まあ関心がある
(ウ) あまり関心がない (エ) 関心がない
- あなたのお考えに最も近いものはどれですか。この中から1つあげてください。
(ア) 負担がある程度増えても、公共サービスを続けるべきだ。
(イ) 公共サービスの水準が低下しても、負担を軽くした方がよい。
(ウ) 負担は現状のままで、その範囲内に公共サービスを抑えるべきだ。
(エ) わからない。
- 現在の税制では、累進課税といって、所得が多くなるにつれて、所得に対する税の課税率が高くなる仕組みになっていますが、このことについてどう思いますか。この中から1つあげてください。
(ア) 所得が大きいほど、生活のゆとりは大きいので低所得者よりも高い税率で税金を支払うのは当然であり、税率にかなりの差があつてよい。
(イ) 所得が大きいのは、本人が努力したからであり、それにことさら高い税率をかけるのはおかしい。働きに応じた手取りがないことは、不公平の一種である。
(ウ) 高所得者と低所得者の間で極端な税率の差を設けるのは問題だが、同じ税率というのも行きすぎなので、緩やかな税率差があるのがよい。
(エ) わからない。
- 国の財政は、年間の支出の2割を借金に頼っていますが、これについてどう思いますか。あなたの考えに最も近いものをこの中から1つあげてください。
(ア) 国の借金はいずれ税金で返済しなければならないものだから、そのツケを先送りするのは不健全であり、1日も早く赤字を解

消すべきだ。

(イ) 借金が続くことは不健全だが、公共サービスのカットや負担の増加は急にはできないので、徐々に赤字の解消を図ればよい。

(ウ) 国の赤字が続いても負担増や公共サービスのカットをするくらいなら、赤字が残ってもよい。

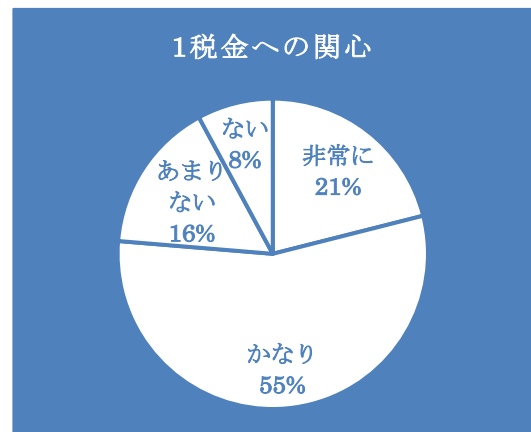
(エ) わからない。

- 「政府の役割と国民の福祉」について5時間の授業を終えました。以下の問いに自由にお答えください。

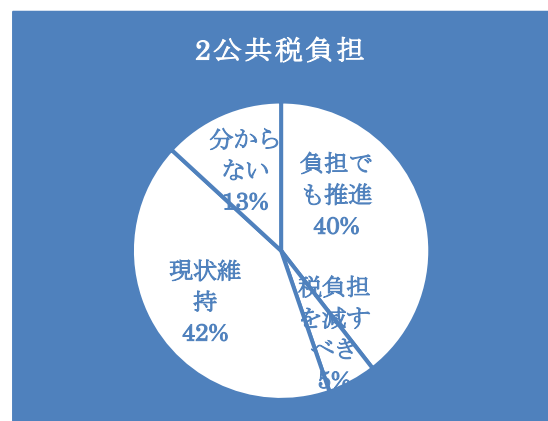
(1)税(税金)の働きや意義、公共サービス、社会保障などについて、授業前と授業後でのあなたの考えに変化はありましたか。

(2)仲間同士で学び合ったり、教え合う授業を中心に行ってきましたが、このような授業についてあなたはどんな感想を持ちましたか。

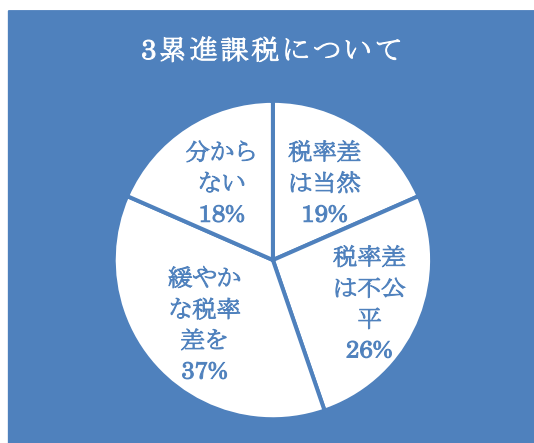
【アンケート結果と概要】



- 授業前アンケートでは具体的に購入の際の税(消費税)に意識するかとの問いであったが、ここでは、授業後に税一般についての関心度を質問した。学び合う学習を通して自分たちで調べたり、話し合ったこと直後であることから関心度の高いものが7割を超えた。

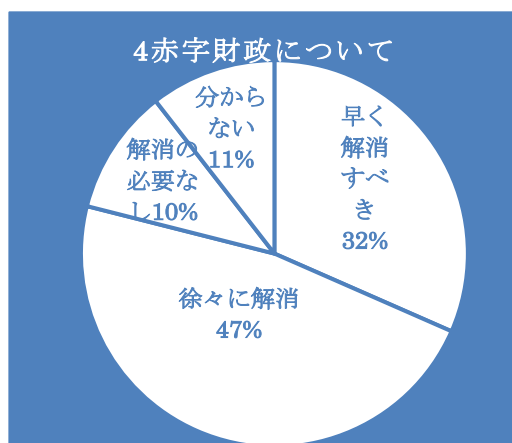


2)授業前には、税収不足を補う手段として、国債発行について質問し、8割の生徒が国債を減らす方向を示していたが、授業後に税の負担と公共サービスについての問いでは、税負担でも公共サービスを推進あるいは現状維持とする方向を示した生徒が8割を超えている。一方、公共サービスが低下しても税負担を減らすべきと答えた生徒は2名であった。



3)累進課税制度であるが、授業前に8割以上の生徒が知識として知っていたが、授業後にこの制度についての思いとしては、税率差は不公平だと考える生徒が26%、税率差は当然だと考える生徒は19%としている。もっとも、当然とは考えないが、ある程度の税率差の累進制度が必要

だとする生徒は37%と最も多い数となり、累進制度肯定派は56%と半数を超えている。



4)「2」の公共サービスの質問の結果でも示したが、授業前には、税収不足を補う手段として、国債発行について質問し、8割の生徒が国債を減らす方向を示していたが、授業後もこの傾向は変わらないものの、特に、早く解消すべきという趣旨の回答では、授業前が6名、16%の生徒であったが、授業後は12名、36%に増えているのが大きな変化である。授業の中で、諸外国との比較や、国内の国債発行の推移を話し合っていたグループが多数あったことが大きく影響しているのではないかと考えられる。

5)(1)税金の働きや意義、公共サービス、社会保障などについて、授業前と授業後であなたの考えに変化はありましたか。(自由記述)ここでは主なものを掲載する。

- ・社会保障の現実が厳しく、少子高齢社会が続くと将来が少し不安です。(8人)
- ・国がかなり借金していることがわかり、この借金を返すにはどうしたらいいか考える必要があると感じました。(4人)
- ・税金がどのように使われるのか、これまではあまり関心もなかったけど、これからは関心を持っていろいろ調べたいと思いました。教育にも多くの税金が使われていることにお驚きました。(6人)
- ・何が平等で何が不公平なのか税を通して考えました。どう使うのかもとても大事だと思います。(2人)
- ・個人だけでなく、企業や自治体も税を払ったり使ったりしていることがわかりました。
- ・税の集め方も使い方もこんなに複雑だとは知りませんでした。
- ・どうしたら税率を上げずに、出来るだけ税を払わなくても、公共サービスが充実するにはどうしたらいいかをこれから考えていきたい。
- ・これまで医療費がタダで病院に行けたのかの意味が分かりました。
- ・税にはマイナスイメージしかなかったが、無ければ大変なことになり、これほど大事なものだとは知りませんでした。
- ・もしも政府が、不正に税金を集めたら国民は大変なことになると思った。税をどのように集め、どのように使うか、を真剣に知る必要がある。

5)(2)仲間同士で学び合ったり、教え合う授業を中心に行ってきましたが、このような授業についてあなたはどんな感想を持ちましたか。(自由記述)ここでは主なものを掲載する。

- ・友達のいろいろな考えや興味関心、問題作りのアイデアが違うことがわかって、自分の考えと比べたりして楽しい授業だった。(12人)
- ・塾で次々に問題を一人で解いていくのではなく、逆に問題を作るという授業は自分のわからないことや友達の考え方の違いが分かって、そして、話し合うことで互いの弱点を補えたと思った。(4人)
- ・グラフや表の使い方も人によって違ふし、いろいろな見方もあって、資料の活用が面白かった。
- ・覚えるのが社会科だと思っていたが、みんなで考えたり、意見したりしながらわかっていくのが社会科かもしれないと感じた。
- ・楽しい反面できる子に頼ってしまう人もいたり、人の意見を聞こうとしない態度にも困ったが、それも含めて、でも話し合いながら問題を作るのは楽しかった。
- ・なかなか自分の意見が分かってもらえないと、疲れてしまうので、普段の授業の方が自分には合っている気がした。
- ・問題を作ることがこれほど大変だとは思わなかった。どんな解答になるか、模範解答が出るように作る問題は案外難しい。
- ・問題は与えられるものではなく、作り出すもので、そのことが大事だと感じた。
- ・楽しいことは楽しいが、本当に正確な理解をしているかが、自分たちだけでは心配だ。
- ・同じ言葉を使っているのに、同じ理解をしていないことがわかった。

5. 今後の課題

①今回の授業では、調べ学習の教材を敢えて教科書と全員が所有している副教材の2点の資料集に限定した。このことについては授業前の議論の中で、別な単元で同様に調べ学習をベースとした発表資料作成の授業を行ったが、そこでは生徒たちは学習課題を追究しているものの、発表資料作成の段階で教科書以外にも各種の雑誌、インターネット記事や資料というように資料検索の幅が拡散してしまい、発表の内容も資料倒れになってしまったために、調べること自体に時間と労力をかけて肝心の話し合いをベースとした思考が深まらない浅薄な授業で終わってしまった経験から限定したものである。

結果として、この2点の資料においてさえも各自の興味関心の違いによってグループとして問題作成の段階で扱う資料を選択することに苦労していた。情報過多の時代にあって優れた教材を収集することは重要であるが、情報の取捨選択と活用できる資料としての焦点化が質の高い授業構成には欠かせないことを痛感した。

②経済単元「政府の役割と国民の福祉」の学習について、学習内容事項である「社会資本の整備」「公害の防止など環境の保全」「少子高齢社会に

おける社会保障の充実・安定化」「消費者の保護」「財政及び租税の意義」「国民の納税の義務」「市場の働きに委ねることが難しい諸問題に関しての国や地方公共団体の役割」、「財政及び租税の役割」を駆使して、生徒たちが財政と国民生活の福祉についての理解を得ることができたかと問われると、次の点で大いに反省すべき課題が残った。

(1)羅列的に財政に関わる学習事項を盛り込んでしまったために、財政を考える上での中心的概念、例えば、「国民生活の安定」「財政民主主義(憲法との関り)」「社会保障の充実と国民福祉」「財政における将来課題」についての理解が浅薄になってしまい、当初心配された財政に関する用語解説的なグループ学習の話し合いが続いていた。これは、第5時の「これだけは学んでほしい」問題作成の中身に現れている。ほとんどが、知識を取り出すだけの問題で、知識を操作しての概念形成や思考判断につなげる問題に至っていない。かろうじて、「日本は債務を減らすため税収を減らして「小さな政府」へと進むべきか、税収を増やし「大きな政府」へと突き進むのか?あなたはどうすべきだとおもいますか?」という出題。また、「所得税(累進課税)と消費税(間

接税)のどちらが公平だと思いますか?」という出題も見られたが、数少なかった。

- (2)協働的活動と共同的作業を重視するあまり、教科である社会科の見方・考え方、社会認識を深めての公民的資質の育成という基本的な目的が後退してしまった。これは、事後アンケートの「5」の(1)と(2)の記述量と記述内容を図ると、圧倒的に学修内容(社会科学学習に対する自己評価)についてよりも授業形態(教科内容ではなく)への評価に対する記述が多かったことから、授業者が学び合う活動を意識しての指導に傾注していたことがわかる。何のための協働的活動と共同的作業なのかと問われたときに、社会科の授業における協働的活動と共同的作業の在り方をしっかりとらえて授業構成する必要があることを再認識させられた。

6. 結びに

「はじめに」でも述べたように、現在、学校現場で働く教員は多忙で、生徒指導、保護者対応、部活動指導、その他諸調査の事務業務の対応で、なかなか授業準備までたどり着かない、という声が少なからずある。こんな訴えを聞くたびに、対応順が違うのではないかと違和感を感じてしまうのは私たちだけだろうか。もちろん命に係わる緊急事態、危機対応は論外だが、まずは授業ではないか…。

そして、地理的、歴史的、公民的分野にかかわる社会事象を通じて、多くの疑問や謎、あるいは批評や批判を織り交ぜながら社会科という教科の魅力を生徒たちと教師が共有することを目指したい。肝心なことは教師が教えるのではなく、生徒たちが学ぶことを基本的な学習態度として尊重していくことだ。社会科はそもそも協働的な活動と共同的な作業によって、個と集団が関わり合いながら問題や課題について話し合い解決していく態度が内在した教科である。「公民的資質の育成」を目指して、ワクワクするような内容と方法の仕掛けを開発したいものである。

【註】

- (1)一般的に日本人の税への関心について、負担感の意識はあるが、納税者としての意識は低いことが、各種の意識調査で明らかになっている。この要因の一つとして、例えば、国民の生活に

大きく影響する所得税について、本来は納税者である被雇用者が支払うべきであるが、源泉徴収制度によって、雇用者が被雇用者に代わって所得税を納め、被雇用者は年末調整の際に税の還付等の手続きのために必要書類を提出する場合がほとんどである。いわゆるサラリーマンといわれる給与所得者の割合が多くを占める日本の産業界では1951年以降、この源泉徴収制度が一般化した。このことによって、本来、民主主義社会での税制の基本が申告制度にあるものの、日本では、多くの国民が支払う所得税が源泉徴収制度の影響で、税を支払うという納税者意識よりも税を徴収されるという負担者意識の方がより強い傾向を示しているのではないかと指摘する識者も多い。

- (2)給与所得など所得税の源泉徴収制度について、最高裁の判例では、効率的かつ公平に税を徴収することが憲法に反する制度であるとは言えないと判断している。したがって、今後も源泉徴収制度が維持される中で、将来の主権者である中学生が負担者意識は残るにしてもより強く納税者意識を醸成して主体的に財政活動に参画し、我が国の政治や経済の発展に貢献する主権者としての教養を身に付けることができるような経済学習を目指したいものである。

【参考文献】

- ・「学校が壊れる」週刊東洋経済、2019.09.16
- ・油布佐和子『現代日本の教師』放送大学教育振興会、2016
- ・国立教育政策研究所編『国研ライブラリー 資質・能力【理論編】』東洋館出版、2016
- ・秋田喜代美『学びの心理学』東洋館出版、2012
- ・杉江修治「協同学習入門」ナカニシヤ出版、2014
- ・三崎 隆『「学び合い」入門』大学教育出版、2012
- ・沼尾奈美子ほか『地方財政を学ぶ』有斐閣ブックス、2017
- ・椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』有斐閣アルマ、2019
- ・小西砂千夫『社会保障の財政学』日本経済評論社、2016
- ・持田信樹『日本の財政と社会保障 給付と負担の将来ビジョン』東洋経済新報社、2019
- ・唐木清志編著『公民的資質とは何か』東洋館出版、2017

- ・全国社会科教育学会編『新社会科授業づくり 中学校編』明治図書, 2016
- ・『政治・経済』東京書籍, 2018
- ・『高校政治・経済新定番』実教出版, 2018
- ・『高等学校 現代政治・経済 新訂版』清水書院, 2018